

# 大槻文彦主要参考文献

東北大学名誉教授・元大学院文学研究科言語学研究室 後藤 斉

2017-08-26; 2025-01-15 改訂

- 相沢源七 1986 『再蘇菅復三伝』 日曜随筆社.
- 秋山勇造 2002 『明治のジャーナリズム精神 一幕末・明治の新聞事情』 五月書房.
- 浅川哲也・竹部歩美 2014 『歴史的変化から理解する現代日本語文法』 おうふう.
- 阿曾沼要 2005 『大槻三賢人』 高橋印刷.
- 甘利璋八 1987 『「ニュースペーパー」 上陸す ―日本の新聞の夜明け』 新人物往来社.
- 新井白石 宮崎道生訳 1968 『新訂 西洋紀聞』 (東洋文庫 113) 平凡社.
- 有田嘉伸 2002 「戦前における外国史教育の歴史 (1)」『長崎大学教育学部紀要 教科教育学』 38, 29-43.
- 安藤菊二 1985 「八丁堀襦記七 異色の学人 青木昆陽」『郷土室だより』 (中央区立京橋図書館) 47, 1-3.
- イ・ヨンスク 1996 『「国語」という思想 近代日本の言語認識』 岩波書店.
- 飯田泰三 1994 「吉野作造随筆解題」『法学志林』 92:2, 95-141.
- 飯田晴巳 2002 『明治を生きる群像 ―近代日本語の成立』 おうふう.
- 池澤一郎 2018 「明治六年十二月一日付大槻文彦宛大槻磐溪書簡について」『近世文芸研究と評論』 94, 41-52.
- 伊沢修二 山住正己校注 1971 『洋楽事始 音楽取調成績申報書』 (東洋文庫 188) 平凡社.
- 石橋智紀 2020 「瀬脇寿人(手塚律蔵)と彼をめぐる人たち」第4期島根県竹島問題研究会編『第4期「竹島問題に関する調査研究」最終報告書』島根県総務部総務課.
- 井田好治・永嶋大典 1976 『諸厄利亜語林大成(静嘉堂文庫蔵 大槻文彦旧蔵) 解説』 雄松堂書店.
- 板倉雅宣 2008 「刷印から印刷へ 文部省『百科全書』底本と大槻文彦訳「印刷術及石版術」」『印刷雑誌』 91, 73-78.
- 一関市博物館編 2000 『はるかなるヨーロッパ 蘭学者大槻玄沢の世界認識』 一関市博物館.
- 一関市博物館編 2004 『大槻磐溪 東北を動かした右文左武の人』 一関市博物館.
- 一関市博物館編 2007 『GENTAKU 近代科学の扉を開いた人』 一関市博物館.
- 一関市博物館編 2011 『ことばの海 国語学者大槻文彦の足跡』 一関市博物館.
- 一関市博物館編 2014 『板木と和本の世界』 一関市博物館.
- 一関市博物館編 2015 『葛西氏の興亡』 一関市博物館.
- 一関市博物館編 2022 『幕末明治を支えた大槻三代 玄沢・磐溪・文彦』 一関市博物館.
- 一関市博物館編 2023 『大槻三代 ファミリーヒストリー』 一関市博物館.
- 一関市博物館編 2024 『学問の家 大槻家の人びと 玄沢から文彦まで』 吉川弘文館.
- 一関市立一関図書館編 [2014] 『日本辞書言海ノート』 一関市立一関図書館.
- 市川任三 1981 「東京下谷根岸及近傍図の覆印に当たって」『東京下谷 根岸及近傍』 1, 69-71.
- 犬飼守薫 1981 「辞書と国語教育 大槻文彦の隠れたる業績」『解釈』 27:5, 58-62.
- 犬飼守薫 1999 『近代辞書編纂史の基礎的研究『大言海』への道』 風間書房.
- 犬飼守薫 2001-2003 「大槻文彦と国字改良運動 (1)~(2)」『文化と情報』 3, 3-16; 『椋山学園大学文化情報学部紀要』 3, 175-183.
- 犬飼守薫 2004 『「日本辞書 言海」』『日本語学』 23:9(特集 近代日本語研究), 274-286.
- 井上和子・豊原繁子 1978 「遺品の研究 ―慶長遣欧使節関係資料・四片の布について―」『東京家政学院大学紀要』 18, 55-67.
- 伊伏啓子 2012 「大槻文彦解『支那文典』 ―「副詞ノ一部」について」『関西大学中国文学会紀要』 33, 249-262.
- 今井源衛 2019 『今井源衛著作集 13 依田学海とその周辺』 笠間書院.
- 入間田宣夫編 1998 『葛西氏の研究』 名著出版.
- 岩崎克己編 1939 『徳川時代舶載洋書目録 第四輯 大槻文庫蘭書目録 (未定稿)』 私家版.
- 岩田豊樹 1972 「琉球関係の古地図」『地図』 10: 2, 19-23.

- 岩手県立図書館編 2011 『大槻文彦と辞書の世界 『言海』 刊行 120 周年』 岩手県立図書館.
- 岩堀行宏 1995 『英和・和英辞典の誕生 一日欧言語文化交流史一』 図書出版社.
- 植田康夫 2016 『出版の冒険者たち。活字を愛した者たちのドラマ』 水曜社.
- 鵜飼幸子 2017 「大槻玄沢と仙台」『講演記録集 第 6 号』 大槻玄沢顕彰会.
- 鵜飼新一 1985 『朝野新聞の研究』 みすず書房.
- 内田智子 2017 「『広日本文典』に見られる音声分析」『長崎国際大学論叢』 17, 1-11.
- 宇野量介 1973 『明治初年の宮城教育』 宝文堂.
- 宇野量介 1993 『新犬棒録』 仙台一高「じっかい」出版会.
- 袁広泉 2013 「明治期における日中間文法学の交流」 石川禎浩・狭間直樹編『近代東アジアにおける翻訳概念の展開』 京都大学人文科学研究所, pp.119-141.
- 遠藤佳那子 2016 「黒川真頼の活用研究と草稿「語学雑図」」『日本語の研究』 12:2, 1-16.
- 遠藤智夫 2005 「＜資料調査報告＞『英和对訳袖珍辞書』研究史における勝俣銓吉郎」『英学史研究』 38, 83-95.
- えんぴつ 佐瀬雅行撮影 2016 「言葉の海と格闘した男「言海」と大槻文彦」『りらく』 19:1(2016.8), 46-49.
- 王娟 2015 「大槻文法の品詞体系の形成『支那文典 大槻文彦解』から見る」『比較文化研究』 119, 319-330.
- 王娟 2018 「大槻文法における「口気」の来源考」『東アジア文化交渉研究』 11, 27-35.
- 王曉葵 2007 「解説」羽賀祥二監修『洋々社談』第 4 巻, ゆまに書房, pp.479-508.
- 大島明秀 2009 「『鎖国』という言説 —ケンペル著・志筑忠雄訳『鎖国論』の受容史—」ミネルヴァ書房.
- 大島明秀 2010 「『開国』概念の検討一言説論の視座から」『國文研究』(熊本県立大学日本語日文学会), 55, 19-34.
- 大島英介 2004 『大槻磐溪の世界 —昨夢詩情のこころ—』 宝文堂.
- 大島英介 2005 「大槻文彦「平泉遊記」とその解説」『岩手県南史談会研究紀要』 34, 58-72.
- 大島英介 2007 「大槻文彦の「正権論」について —不攘の攘、不鎖の鎖—」同 36, 45-48.
- 大島英介 2008 『遂げずばやまじ 日本の近代化に尽くした大槻三賢人』 岩手日報社.
- 太田雅夫 2007 『新島襄とその周辺』 青山社.
- 大橋崇行 2017 『言語と思想の言説 <sup>ディスカール</sup> —近代文学成立期における山田美妙とその周辺—』 笠間書院.
- 大村榮 1986 『養賢堂からの出発 教育百年史余話 I』 ぎょうせい.
- 岡崎勝世 2016 「日本における世界史教育の歴史 (I-1) —「普遍史型万国史」の時代—」『埼玉大学紀要 教養学部』 51:2, 21-64.
- 岡田和子 2006 『江戸および明治期の洋語学における文法用語の比較研究 —和蘭語・英語・独逸語をめぐる—』 筑波大学博士論文.
- 岡田一祐 2021 『近代平仮名体系の成立 明治期読本と平仮名字体意識』 文学通信.
- 緒方康二 1981 「明治とデザイン: 色彩教育としての「色図」」『夙川学院短期大学研究紀要』 6, 64-85.
- 緒方康二 1987 「明治のころの小学校における色彩教育」『日本色彩学会誌』 11:2, 101-112.
- 沖森卓也編 2017 『図説 近代日本の辞書』 おうふう.
- 沖森卓也・木村義之編著 2021 『辞書の成り立ち』 朝倉書店.
- 長志珠絵 1998 『近代日本と国語ナショナリズム』 吉川弘文館.
- 小田光雄 2003 『書店の近代 本が輝いていた時代』 (平凡社新書 184), 平凡社.
- 小野春菜 2017 「稿本言海の作成時期に関する一考察」『清泉女子大学大学院人文科学研究科論集』 22, 62-45.
- 小野春菜 2020 「『言海』校正刷における漢字字体／字形について」日本近代語研究会編『論究日本近代語 第 1 集』 勉誠出版, pp.159-173.
- 小野春菜 2020 「『和英語林集成』再版と『言海』の関係再検討」国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究 39』 和泉書院.
- 小野春菜 2022 「稿本『言海』にみられる同音異義語の扱い」日本近代語研究会編『論究日本近代語 第 2 集』 勉誠出版, pp..

- 小原磨溪先生五十年祭執行委員会編 1967 『郷土の先哲 小原磨溪先生』 私家版.
- 小山盛編 1925 『藤の薫』 藤崖翁頌徳碑建設事務所.
- 風間力三 1981 「大槻文彦著 山田俊雄編 『稿本日本辞書言海』 『国語学』 124: 42-49.
- 片桐一男 1960 「静嘉堂文庫所蔵大槻家旧蔵蘭書考」 『蘭学資料研究会研究報告』 71, 1-23.
- 葛飾区郷土と天文の博物館編 2001 『源頼朝と葛西氏 鎌倉御家人葛西氏の足跡』 葛飾区郷土と天文の博物館.
- 加藤清 1976 「文彦先生と青果さん」 『宮城県人』 277, 4-5.
- 金沢規雄 1965 『近代文学と仙台 I —ある流れのなかに—』 日曜随筆社.
- 神戸愉樹美 2010 「胡弓と rabeca —ソフトとしてのキリシタン起源説—」 『日本伝統音楽研究』 7: 37-59.(修正版 2012.2: <https://rcjtm.kcua.ac.jp/archive-db/kokyu/kanbe20120202.pdf>)
- 勘米良祐太 2016 「明治 35 年中学校教授要目による文法教育の変化 —領域「文法及作文」の設定に着目して—」 『国語科教育』 80, 15-22.
- 川原次吉郎編 1933 『古川余影』 私家版.(復刻版 1995 吉野作造記念館)
- 河瀬真弥 2021 「『言海』において「牽強」「強牽」「附會」「鑿」とされる語源説について」 『京都大学国文学論叢』 45: 25-56.
- 河瀬真弥 2022 「『言海』における『増補雅言集覧』利用法について-をしね(小稻)の用例-」 『京都大学国文学論叢』 47: 51-78.
- 河瀬真弥 2023 「『言海』語源欄における漢字表記注記考 正統ではないとする漢字表記注記について、判定の根拠と注記の目的」 『国語国文』 1066: 41-62.
- 菊田紀郎 2010 「大槻文彦と山田美妙の言語観 —『言海』・『日本大辞書』の編纂にかかわって—」 『日本学研究』 (藤原暹ゼミ(日本学)藤之会), 5, 15-29.
- 菊地真一 1996-2000 『近古史談 本文篇・注釈索引篇』 (2 巻), 和泉書院.
- 菊池武人 1995 『近世仙台方言書 研究編・翻刻編・続翻刻編』 (3 巻), 明治書院.
- 北山ガイドボランティア編 2022 『仙台藩の埋もれた遺臣たち 増補改訂版』 北山ガイドボランティア.
- 木全清弘 1989 「万国史教科書の内容分析 (2)」 『滋賀大学教育研究所紀要』 23, 17-27.
- 木村淳 2019 『明治期の漢文教科書の変遷に関する研究』 東北大学博士論文.
- 木村紀夫 2018 『仙台藩の戊辰戦争 東北諸藩幕末戦記 増補決定版』 荒蝦夷.
- 木村紀夫 2018 『仙台藩の戊辰戦争 幕末維新人物録 282 増補決定版』 荒蝦夷.
- 木村紀夫 2023 「戊辰戦争 弔魂碑」 『仙臺郷土研究』 48: 2, 16-25.
- 京極興一 1986 「「国語」「邦語」「日本語」について —近世から明治初期にいたる—」 『国語学』 146, 1-12.
- 金銀珠 2010 「近代日本の文法学における助動詞の成立 —「語」の獲得へ—」 『HERSETEC』 4:2, 59-76.
- 工藤宜 1989 『江戸文人のスクラップブック』 新潮社.
- 國本学史 2018 「初等教育における色図の妥当性」 『日本色彩学会誌』 42:6 SUPPLEMENT, 101-106.
- 久保勇 2012 「明治期の『平家物語』研究 —福地桜痴から館山漸之進、山田孝雄へ—」 『千葉大学人文社会科学研究』 25, 1-12.
- 熊田淳美 2009 『三大編纂物 群書類従・古事類苑・国書総目録の出版文化史』 勉誠出版.
- 倉島節尚 2002 『辞書と日本語 —国語辞典を解剖する—』 (光文社新書 076), 光文社.
- 倉島節尚 2003 『日本語一〇〇年の鼓動 日本人なら知っておきたい国語辞典誕生のいきさつ』 小学館.
- 倉島節尚 2008 『日本語辞書学への序章』 大正大学出版会.
- 倉島節尚 2010 『国語辞書一〇〇年 日本語をつかまえようと苦闘した人々の物語』 おうふう.
- 倉島節尚 2018 「『言海』『大言海』の外来語」 沖森卓也編 『歴史言語学の射程』 三省堂, pp.301-324.
- 倉島長正 1997 「『国語』と『国語辞典』の時代・上 —その歴史—」 小学館.
- 栗原伸一郎 2016 「大槻文彦と伊達家爵位昇進運動」 『宮城県公文書館だより』 30, 2-4.
- 栗原伸一郎 2017 「伊達政宗と青葉神社」 『宮城県公文書館だより』 31, 5-10.
- 栗原伸一郎 2017 「宮城県知事の伊達政宗顕彰」 『宮城県公文書館だより』 34, 1-4.
- 栗原伸一郎 2017 『戊辰戦争と「奥羽越」列藩同盟』 清文堂出版.
- 『言海』刊行百周年記念事業実行委員会編 1992 『大槻文彦 言海と一関』 一関市教育委員会.

- 見坊行徳・稲川智樹 2021 『辞典語辞典 辞書にまつわる言葉をイラストと豆知識でずっしりと読み解く』 誠文堂新光社.
- 小出昌洋 1978 「小西湖佳話とその著者秋萍居士」『日本歴史』 365, 43-45.
- 小岩弘明 1998 「大槻文彦における著述傾向の推移」『一関市博物館研究報告』 1, 17-26.
- 小岩弘明 1999 「大槻家旧蔵資料考 一展覧会出品目録を中心として一」同 2, 35-43.
- 小岩弘明 2000 「大槻家の明治二年 一大槻磐溪入牢に際して一」同 3, 33-42.
- 小岩弘明 2001-2011 「大槻文彦「日本文典」立案過程の痕跡 (1)-(3)」同 4, 1-26; 8, 45-62; 14, 75-92.
- 小岩弘明 2004 「『言海』刊行遅延の謝辞と「ことばのうみのおくがき」について」同 7, 41-55.
- 小岩弘明 2007 「二つの葛西清重肖像 一大槻文彦と西光寺をめぐる一」『葛飾区郷土と天文の博物館紀要』 11: 92-99.
- 小岩弘明 2008 「大槻文彦の英学修行と戊辰戦争 一その青年期を再検証する一」『一関市博物館研究報告』 11, 41-60.
- 小岩弘明 2009 「大槻文彦起草「議案日本口語法」について 一『口語法』刊行に向けた活動の一端一」同 12, 49-64.
- 小岩弘明 2010 「国語調査委員会の活動を探る 一大槻文彦「国語調査委員日記」から一」同 13, 47-62.
- 小岩弘明 2012 「青年校長大槻文彦 一宮城師範学校創設のころ一」同 15, 65-76.
- 小岩弘明 2013 「大槻文彦「言海」宅下一件 一辞書編纂に寄せる思いと幻の草稿を追う一」同 16, 35-48.
- 小岩弘明 2014 「大槻文彦自筆履歴書 一大槻家寄贈資料から一」同 17, 51-62.
- 小岩弘明 2017 「大槻文彦の一関「帰省」一旅行記を読む一」同 20, 85-96.
- 小岩弘明 2019 「大槻文彦のご進講 一大正一四年講書始の儀一」同 22, 53-66.
- 小岩弘明 2020 「『大言海』第一巻刊行に向けて一その記録と校正原稿の紹介一」同 23, 63-74.
- 小岩弘明 2022 「大槻三代の贈位・追陞」同 25, 55-66.
- 小岩弘明 2023 「大槻文彦稿「大槻民治ノ逸話」」同 26, 51-64.
- 河野通統 1981 「元三島神社」『東京下谷 根岸及近傍』 1, 38-43.
- 国立国会図書館支部静嘉堂文庫 1950 『静嘉堂文庫大槻本分類仮目録』 国立国会図書館支部静嘉堂文庫.
- 小島義郎 1999 『英語辞書の変遷 英・米・日本を併せ見て』 研究社.
- 小関三郎編 1938 『仙台先哲偉人録』 仙台教育会.
- 後藤斉 2016 「西洋人日本語研究に関する吉野作造の論考」『東北大学言語学論集』 24, 1-14.
- 後藤斉 2019 「洋学者としての大槻文彦」 東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会編『ハイブリッドな文化』 東北大学出版会, pp.75-119.
- 後藤斉 2021 「吉野作造と大槻文彦 一その敬愛と学問的影響一」『吉野作造研究』 17, 1-13.
- 小林清治 2015 『伊達騒動と原田甲斐』 吉川弘文館.
- 今野真二 2013 『『言海』と明治の日本語』 港の人.
- 今野真二 2014 『辞書を読む』 (平凡社新書 760), 平凡社.
- 今野真二 2014 『日本語のミッシングリンク 江戸と明治の連続・不連続』 新潮社.
- 今野真二 2014 『辞書からみた日本語の歴史』 (ちくまプリマー新書 220), 筑摩書房.
- 今野真二 2014 『「言海」を読む ことばの海と明治の日本語』 KADOKAWA.
- 今野真二 2015 『超明解! 国語辞典』 (文春新書 1018), 文藝春秋.
- 今野真二 2019 『日本語が英語と出会うとき 日本語と英和・和英辞書の百五十年』 研究社.
- 今野真二 2020 『振仮名の歴史』 (岩波現代文庫/文芸 318), 岩波書店.
- 今野真二 2021 「『言海』における類義語 見出しが漢語の場合」 国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究 40』 和泉書院.
- 今野真二・小野春菜 2018 『言海の研究』 武蔵野書院.
- 齊木美知世・鷺尾龍一 2012 『日本文法の系譜学 国語学史と言語学史の接点』 開拓社.
- 齊木美知世・鷺尾龍一 2014 『国語学史の近代と現代 研究史の空白を埋める試み』 開拓社.
- 齊藤紀子 2016 「三木楽器の帳簿(1902-1940)にみるピアノの販売網 一取次商の調査にもとづいて一」『人間文化創成科学論叢』 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科), 19, 107-115.

- 斎藤浩一 2022 『日本の英文法ができるまで』 研究社.
- 齋藤秀彦 2022 「福澤諭吉をめぐる人々 その 63 大槻三代(その 1) 玄沢, その 65(その 2) 磐溪, その 68(その 3) 文彦」『三田評論』1262: 28-31; 1264: 44-47; 1267: 58-61.
- 斎藤信 1985 『日本におけるオランダ語研究の歴史』 大学書林.
- 境田稔信 1990 「『日本辞書言海』大形本における諸版の比較」『出版研究』21, 112-130.
- 境田稔信 1991 「『日本辞書言海』大形本の正誤訂正と系譜」近代語研究会編『日本近代語研究 1』ひつじ書房, 281-304.
- 境田稔信 1998 「書香コレクション 近代辞書に魅せられて 国語辞典の変遷と活字文化の世界」モリサワ・タイポグラフィ・スペース.
- 境田稔信 2013 「『言海』と現代の国語辞書」『日本語学』32:2, 4-13.
- 佐々木邦 1992 「大槻文彦と英学 ―その時代の文化的背景―」『岩手県南史談会研究紀要』21, 9-20.
- 佐々木邦 1996 『文彦 啄木 藤村』北上書房.
- 佐々木慶市編 1956 『仙台一高六十年史』宮城県仙台第一高等学校同窓会.
- 佐々木徹 2021 『慶長遣欧使節 伊達政宗が夢見た国際外交』吉川弘文館.
- 佐藤憲一 2022 「九十年ぶりに発見された伊達政宗筆「達磨図」について」『美術の窓』467, 115-116.
- 佐藤亨編著 1998 『石越の昔を探る 伝承と石碑が語る郷土』私家版.
- 佐藤昌介 1997 『高野長英』(岩波新書 新赤版 512), 岩波書店.
- 佐藤武義他編 2000 『御国通辞/仙台言葉以呂波寄/仙台言葉/方言達用抄/仙台方言/荘内浜荻/荘内方音攷』(近世方言辞書 2), 港の人.
- 佐藤教昭・佐藤一伯 2010 「大槻文彦『復軒旅日記』と大槻館址探訪記」『日本学研究』5, 81-86.
- 佐藤典正 1964 『細倉鋤山史』三菱金属鋤業株式会社細倉鋤業所.
- 佐藤稔 1989 「明治の国語問題 ―その始発期―」『秋田大学教育学部教育研究所研究所報』26, 1-9.
- 佐藤良雄 1964 「英学の影響と国文典の助動詞」『日本英学史研究会研究報告』4, 1-11.
- 佐藤良雄 1973 「大槻文彦と英文法」『英学史研究』6, 19-26.
- 佐藤和賀子 2013 「朴澤三代治と裁縫教授用掛図」『仙台大学紀要』44:2, 59-72.
- 佐野摩美 1986 「『大言海』底稿について」『解釈』32:12, 21-22.
- 佐野摩美 1989 「大槻文彦著『言海』の正書法に就いて」『国文学論集』(上智大学国文学会)22, 187-210.
- 佐野摩美 1991 「『和英語林集成』が『言海』の語義分類に与えた影響」近代語研究会編『日本近代語研究 1』ひつじ書房, 257-279.
- サンキュータツオ 2016 『学校では教えてくれない! 国語辞典の遊び方』角川文庫(さ-71), KADOKAWA.
- 山東功 2002 『明治前期日本文典の研究』和泉書院.
- 山東功 2012 「大槻以後 ―学校国文法成立史研究―」『言語文化学研究 日本語日本文学編』7, 1-20.
- 山東功 2014 「国語施策と文法教育」『言語文化学研究.日本語日本文学編』9, 1-15.
- 重久篤太郎 1982 『日本近世英学史(増補版)』名著普及会.
- 柴田和夫 1974 「国立公文書館所蔵明治初期建白書について」『北の丸』2, 3-21.
- 柴田松太郎 2003 「銀杏(イチョウ)の語源 ―研究の歴史と現状―」『科学教育と科学運動』43, 33-40.
- 島森哲男 2019 「大槻磐溪の漢詩」『宮城教育大学紀要』54, 508-524.
- 昭和女子大学近代文学研究室 1968 「大槻文彦」『近代文学研究叢書』第 28 卷, 昭和女子大学, pp.237-274.
- 新藤透 2004 「松浦武四郎・大槻文彦の北方史研究 ―明治期北方史学史の文献的研究―」『日欧比較文化研究』9, 44-58.
- 菅原政治郎 原編下飯坂秀治 2021 『よみがえれ「仙台藩戊辰史」』S・I 科学情報研究所.
- 杉沼修一編 1918 『仙台藩戊辰殉難者五十年弔祭誌』私家版.(『仙臺郷土研究』43:1, 2018.として復刻).
- 鈴木舜一 2010 「天平の産金地, 宮城県寛岳丘陵の砂金と地質の研究史」『地質学雑誌』116:6, 341-346.
- 鈴木隆編 山田俊雄監修・解説 2007 『『言海』完成祝宴の全記録』タングラム.
- 関戸明子 2018 『草津温泉の社会史』青弓社.

- 関戸明子 2020 「明治期から昭和初期における草津温泉の時間湯」『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』69: 55-74.
- 銭谷真人 2012 「『言海』における仮名字体および仮名文字遣い」『日本語学 研究と資料』35, 15-38.
- 仙台中・一高百年史編纂委員会 1993 『仙台中・一高百年史』宮城県仙台第一高等学校創立百周年記念事業実行委員会.
- 仙台市史編さん委員会編 2004 『仙台市史 通史編 5 近世 3』仙台市.
- 仙台市史編さん委員会編 2008 『仙台市史 通史編 6 近代 1』仙台市.
- 仙台市博物館編 1979 『仙台藩の学問・思想の系譜展』仙台市博物館.
- 平重道 1977 『林子平 その人と思想』宝文堂出版販売.
- 高木謙次郎 1984 「醸家銘々伝 宮城県・仙台市 鳳山」『日本醸造協會雑誌』79:8, 567.
- 高木まさき 1994 「榊原芳野伝覚書き 一明治初期国語教科書編纂者の研究一」『人文科教育研究』21, 1-11.
- 高田宏 1978 『言葉の海へ』新潮社. (のち岩波書店, 1998; 洋泉社, 2007; 新潮文庫(た-27-1), 2018)
- 高田宏 1984 「大言海の誕生 一出版人坂本嘉治馬や助手大久保初男らのこと」『月刊言語』13:1, 31-35.
- 高野繁男 1980 「大槻文彦・訳「言語篇」の訳語 一明治初期の翻訳漢語一」『人文研究所報』(神奈川大学)14, 83-107.
- 高野繁男 2004 『近代漢語の研究 一日本語の造語法・訳語法一』明治書院.
- 高橋紘 2022 「大槻磐溪・文彦と前哲林子平碑」『一関市博物館研究報告』25, 49-54.
- 高橋秀悦 2014 「『海舟日記』に見る「忘れられた元日銀總裁」富田鐵之助 ～戊辰・箱館戦争後まで～」『東北学院大学経済学論集』182, 93-124.
- 高橋秀悦 2017 「北学院大学ホーイ記念館敷地と六軒丁と「ヒストリカル・トライアングル」『東北学院史資料センター年報』2, 25-42.
- 高橋昌郎 1987 『西村茂樹』吉川弘文館.
- 高松卯喜路 1980 『幕将古屋佐久左衛門(兄)・幕医高松凌雲(弟)伝』私家版.
- 竹田晃子 2016 「新村出自筆「東西語法境界線概略」の成立再考 一新村出と大槻文彦による三枚の地図をもとに」『アルテス リベラレス』98, 129-145.
- 田澤耕 2014 『<辞書屋>列伝 言葉に憑かれた人びと』(中公新書 2251), 中央公論社.
- 田中恵 1999 「大槻文彦の『言海』と地誌四著作 国家の輪郭形成をめぐる」『年報日本史叢』53-72.
- 田中恵 2001 「大槻文彦にとっての表記と国民」『日本史学集録』24, 21-38.
- 田鍋桂子 2000 「『日本辞書言海』の語種 一外来語を中心に」『日本語論叢』1, 43-54.
- 田鍋桂子 2001 「『支那文典』注釈部分に見られる大槻文彦の文法意識」『日本語論叢』2, 24-35.
- 田鍋桂子 2001 「『支那文典』から「語法指南」へ 一「六個地歩」における註釈を中心に」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊』9:2, 13-22.
- 田鍋桂子 2002 「国立国会図書館蔵『東京須覧具』について」『日本語論叢』3, 25-36.
- 田鍋桂子 2004 「方言よりみた『日本辞書言海』の編纂態度」『日本語論叢』4, 37-48.
- 田鍋桂子 2005 「大槻文彦著『東京須覧具』と『日本辞書言海』」『早稲田日本語研究』14, 49-60.
- 田鍋桂子 2007 「『日本辞書言海』の語釈 一大槻文彦・榊原芳野述『色図釈』の場合」『日本語論叢』特別号, 72-83.
- 田鍋桂子 2014 「国語調査委員会編纂『口語法』『口語法別記』の位置づけ 一編纂過程と大槻文彦一」小林賢次・小林千草編『日本語史の新視点と現代日本語』勉誠出版.94-111.
- 田鍋桂子 2015 「大槻文彦の標準語観」『明海大学外国語学部論集』27, 1-13.
- 田鍋桂子 2022 「大槻文彦と『言海』編纂 新資料「言海跋」と「ことばのうみ の おくがき」を通して」岩下哲典編著『「文明開化」と江戸の残像 一六一五～一九〇七』ミネルヴァ書房. 149-195.
- 谷川朋史 2020 「「基礎ゼミ」の魅力 ～言語学者は元スパイ!? 大槻文彦の意外な一面～」『曙光』49, 25-27.
- 田村新 2016 「日中『漢文典』の記述に関する一考察」『人文学報』(首都大学東京人文科学研究科), 512:12, 115-134.
- 田村新 2019 「大槻文彦と中国語研究 一『支那文典を中心に』」『人文学報』(首都大学東京人文科学研究科), 515:12, 1-19.

- 樽井由紀 2014 「温泉の効能から見た伊香保温泉の近代化 温泉番付、錦絵、温泉案内書を手がかりに」『観光学評論』2:2, 155-168.
- 千葉瑞夫 1982 『磐井の里の先賢 清庵と大槻家の人々』岩手日報社.
- 陳力衛 2001 『和製漢語の形成とその展開』汲古書院.
- 陳力衛 2019 『近代知の翻訳と伝播 漢語を媒介に』三省堂.
- 陳力衛編 2020 『近代の語彙 1—四民平等の時代—』(シリーズ日本語の語彙 5), 朝倉書店.
- 戸沢行夫 1991 『明六社の人びと』築地書館.
- 豊島正之(司会) 2019 「パネル・ディスカッション概要 「『日本辞書言海』の解剖」」『国文学論集』(上智大学国文学会)52, 67-80.
- 鳥井克之 1995 『中国文法学説史』関西大学出版部.
- 鳥井裕美子 2013 『前野良沢』大分県教育委員会.
- 永嶋大典 1966 「『ウェブスター』と『言海』」『国語学』64, 71-80.
- 永島道男 2017 『言葉の大海へ『大言海』を愉しむ』文芸社.
- 永島道男 2023 『『大言海』百話』ブイツーソリューション.
- 中田祝夫 1982 『日本の漢字』(『日本語の世界』4), 中央公論社.<sup>no</sup>
- 永田青雲 1996 『道南の碑—北海道道南における碑碣・墓銘の研究』幻洋社.
- 中西光雄 2012 「『螢の光』と稲垣千穎 国民的唱歌と作詞者の数奇な運命」ぎょうせい.
- 長沼美香子 2017 『訳された近代 文部省『百科全書』の翻訳学』法政大学出版局.
- 永野賢 1991 『文法研究史と文法教育』明治書院.
- 中林良雄 2011 「明治文化史の中の根岸党と根岸短歌会—《根岸及近傍》考」『中央英米文学』45: 4-44.
- 西田耕三編 1993 『吉野作造と仙台』宮城地域史学協議会.
- 仁田義雄 2021 『国語問題と日本語文法研究史』ひつじ書房.
- 野口保市郎 1939 「古代鹿島地方の歴史地理について」『社会経済史学』9:4, 337-356.
- 野村篤司 2016 『日本の「ことば・読み書き」指導の近代史』本の泉社.
- 野村俊一・加藤諭・菅野智則 2022 『学都仙台の近代 高等教育機関とその建築』東北大学出版会.
- 長谷川洋史 1999 「大槻版「薩州商社発端」「薩州商社条書」の出自・経緯について」『研究論叢』(東亜大学学術研究所), 22:2, 1-49.
- 服部隆 2017 『明治期における日本語文法研究史』ひつじ書房.
- 早川勇 1998 「日本における辞書学の誕生と発展」『人間と環境』2, 37-50.
- 早川勇 2007 『ウェブスター辞書と明治の知識人』春風社.
- 早川勇 2015 「『国語』辞典の誕生」『文学』18:5, 2-16.
- 早坂信子 2021 「司書になった本の虫」郵研社.
- 飛田良文 2002 「いろは順から五十音順へ」近代語研究会編『日本近代語研究 3』ひつじ書房, 1-19.
- 飛田良文 2019 『明治生まれの日本語』KADOKAWA (角川ソフィア文庫).
- 飛田良文他編 2003 『「明治期国語辞書大系」書誌と研究』大空社.
- ヒョン・ジニ 2003 「『口語』の規範—『口語法』『同別記』を中心に—」『一橋研究』28:3, 33-46.
- <sup>ヒョン・ジニ</sup> 邢鎮義 2008 「近代日本における標準語政策—標準語制定のための口語調査を中心に—」『日語教育』(韓国日本語教育学会)45, 69-81.
- <sup>ヒョン・ジニ</sup> 邢鎮義 2017 「近代日本の『国語』と大槻文彦の言語観」『日本文化學報』(韓国日本文化学会) 74, 173-187.
- <sup>ヒョン・ジニ</sup> 邢鎮義 2021 「言語の規範と『国語』辞書—大言海と大日本国語辞典を中心に—」『일본근대학연구』74, 35-52.
- 平弥悠紀 2014 「『言海』の音象徴語」『同志社大学日本語・日本文化研究』11: 1-21.
- 平井昌夫 1949 『国語国字問題の歴史』昭森社.(1998 復刻, 三元社)
- 平川新 2022 『〈伊達騒動〉の真相』吉川弘文館.

- 平田祥彦 2007 「文部省による Chambers's Information for the People の翻訳と音楽教科書編集の可能性 (1) — 『箕作麟祥君傳』における大槻文彦の記述と佐原純一の談話の検討を中心に—」『音楽教育史研究』10, 85-97.
- 福鎌達夫 1968 『明治初期百科全書の研究』風間書房.
- 福本和夫 1977 『私の辞書論』河出書房新社.
- 古田東朔 鈴木泰他編 2010 『日本語 近代への歩み 国語学史 2』(近現代日本語生成史コレクション 4), くろしお出版.
- 古田東朔 鈴木泰他編 2014 『東朔夜話 伝記と随筆』(近現代日本語生成史コレクション 6), くろしお出版.
- 古畑侑亮 2018 「幕末・明治における新井白石著作の蒐集 — 埼玉の「好古家」小室元長と白石社 —」『大倉山論集』64, 33-72.
- 逸見英夫 2002 『明治・大正・昭和 仙台じけん帳』河北新報社.
- 堀孝彦 2011 『開国と英和辞書 — 評伝・堀達之助』港の人.
- 堀孝彦・遠藤智夫 1999 『『英和对訳袖珍辞書』の遍歴 一目で見る現存初版 15 本—』辞游社.
- 本庄栄治郎 1968 「明六社について」『日本学士院紀要』26:2, 91-113.
- 本庄栄治郎 1969 「洋々社について」『日本学士院紀要』27:1, 11-18.
- 本馬貞夫 2007 「長崎蘭学と歴史教科書」志筑忠雄没後 200 年記念国際シンポジウム実行委員会他編『蘭学のフロンティア 志筑忠雄の世界 志筑忠雄没後 200 年記念国際シンポジウム報告書』長崎文献社.44-57.
- 松浦寿輝 2014 『明治の表象空間』新潮社. (のち岩波現代文庫, 2024)
- 松浦広 2014 「近代日本の印刷技術書探訪 3.『文部省百科全書』のなかの『印刷術及石版術』」『印刷雑誌』97:7, 65-68.
- 松下眞也 2001 「ライデン大学・ボン大学における早稲田大学図書館所蔵蘭学資料展について」『早稲田大学図書館紀要』48, 1-25.
- 馬淵礼子 2006 『馬淵礼子評論集 2 歌の早春』短歌研究社.
- 三木佐助 水田紀久解説 1977 『明治出版史話』(『玉淵叢話』(1902)の改題複製)ゆまに書房.
- 宮岡伯人 2015 『「語」とはなにか・再考 — 日本語文法と「文字の陥穽」』三省堂.
- 宮城県教育委員会編 1975-1979 『宮城県教育百年史』ぎょうせい.
- 宮城県公文書館編 2015 『近代のなかの伊達 歴史学者・大槻文彦と宮城県』宮城県公文書館.
- 宮城県第二女子高等学校編 2005 『二女高百年史』宮城県第二女子高等学校.
- 宮城県図書館編 1954 『宮城県図書館蔵郷土文献目録 伊達文庫、小西文庫、今泉文庫、大槻文庫及在来本館所蔵古文献より採録』宮城県図書館.
- 宮城県図書館編 1984 『宮城県図書館蔵青柳・今泉・大槻・養賢堂文庫和漢書目録』宮城県図書館.宮城県図書館編 1998 『講演会記録 宮城県図書館開館記念事業』宮城県図書館.
- 宮島達夫 1967 「現代語いの形成」『ことばの研究』3, 1-50.
- 村上祐紀 2018 『森鷗外の歴史地図』翰林書房.
- 明治書院企画編集部編 1997 『日本語学者列伝』明治書院.
- 目黒順蔵・目黒士門 目黒安子編 2018 『戊辰戦争後の青年武士とキリスト教 仙台藩士・目黒順蔵遺文』風濤社.
- 目野由希 2008 「<共同研究報告>明治「史談」、その読者」『日本研究』37, 315-327.
- 本木正栄他編訳 1976 『語厄利亜語林大成』雄松堂書店.
- 森まゆみ 2017 『子規の音』新潮社.
- 森岡健二 1991 『近代語の成立 文体編』明治書院.
- 森田真吾 2021 『「学校文法」成立過程における指導内容の生成と収斂』筑波大学博士論文.
- 安田敏朗 2006 『辞書の政治学 ことばの規範とはなにか』平凡社.
- 安田敏朗 2018 『大槻文彦『言海』 辞書と日本の近代』慶應義塾大学出版会.
- 山口昌男 1995 『「敗者」の精神史』岩波書店.
- 山口昌男 2001 『内田魯庵山脈 <失われた日本人>発掘』晶文社.
- 山口謠司 2016 『日本語を作った男 上田万年とその時代』集英社インターナショナル.

- 山下一郎 2007 『鶯の谷 根岸の里の覚え書き』 富山房インターナショナル.
- 山田忠雄 1981 『三代の辞書 国語辞書百年小史 改訂版』 (三省堂ぶっくれっと特別記念号) 三省堂.
- 山田忠雄述 1981 『近代国語辞書の歩み その模倣と創意と 上』 三省堂.
- 山田俊雄 1980 『図録 日本辞書 言海』 大修館書店.
- 山田俊雄 1980 「『日本辞書言海』完成祝宴における祝辞二種の筆記について」『国語学』122, 70-80.
- 山田孝雄 2009 『国語学史要 山田国語学入門選書 2』 書肆心水.
- 山田みどり 2020 『高松凌雲と同愛社 ―その生涯・思想と医療福祉の源流としての同愛社事業―』 日本福祉大学大学院博士論文.
- 山田悦且 2015 『近代医学の羅針盤 桜所石川良信の生涯』 私家版. [http://www.tome-syukusai.or.jp/event\\_img/ousyo.pdf](http://www.tome-syukusai.or.jp/event_img/ousyo.pdf)
- 山本正秀 1965 『近代文体発生の史的研究』 岩波書店.
- 湯浅茂雄 1997 「『言海』と近世辞書」『国語学』188, 1-14.
- 湯浅茂雄 2016 「大槻文彦」『日本語学』35:4(特集 人物でたどる日本語学史), 88-91.
- 横山嘉彦 2011 「ニュース 瑞鳳殿 弔魂碑改修落成式」『金属ガラス総合研究センターニュース』12, 1.
- 吉田厚子 1994 「青木昆陽伝再考(1) ―一生没・家系と甘藷試作・普及に至るまで―」『実学史研究』10, 27-45.
- 吉田澄夫・井之口有一編 1964 『明治以降国語問題論集』 風間書房.
- 吉野作造 1995-97 『吉野作造選集』全 15 巻+別巻 1 岩波書店.
- 吉野作造記念館編 2022 『吉野作造と宮城県尋常中学校の仲間たち 展示目録』 同館.
- 依田学海 学海日録研究会編 1990-93 『学海日録』 岩波書店.
- 與那覇潤 2006 「『民族問題』の不在 あるいは『琉球処分』の歴史／人類学」『文化人類学』70:4, 451-472.
- 盧驍 2018 「近代日本人による中国語口語文法の研究 ―介詞に関する記述を中心に―」『或問』33, 77-90.
- 盧驍 2019 「日本人の中国語『副詞』論に関する一考察 ―日本文典からの影響を中心に―」『東アジア文化交渉研究』12, 53-66.
- 盧驍 2019 「明治・大正期の中国語口語文法書における語気詞名称の由来と伝承」『関西大学東西学術研究所紀要』52, 147-162.
- 涌谷町編 1994 『黄金山産金遺跡 ―関係資料集―』 涌谷町.
- 早稲田大学図書館 1953 『岡村館長古稀祝賀 開国百年記念 洋学展覧会目録 ―自筆本を中心として―』 早稲田大学図書館.
- 早稲田大学図書館編 1968 『早稲田大学図書館蔵 洋学資料図録』 早稲田大学図書館.
- 早稲田大学図書館編 1971 『洋学文庫目録 〔稿〕』 早稲田大学図書館.
- 渡邊洋一 2014-15 「郷土研究の先学たち(上)-(下)」『仙台郷土研究』39,1:45-49; 39,2:24-30; 40,1:35-41.
- 「大槻大矢両博士記念」『国語と国文学』5:7-8 (1928).
- 『大言海 文献集』 富山房, 1932.
- 「大槻博士の思ひ出号」『国漢』17:11(1935)
- 『学友会雑誌』5, 宮城県中学校学友会, 1899.
- 『宮城県立仙台第一中学校一覧』s.d.[1907.12 現在]
- 『創立三十年記念号』 宮城県仙台第一中学校学友会, 1923.
- 『仰げば尊しのすべて』(KICG-3262) キングレコード, 2014.